

[10] 児湯郡小体連 (学校数 15 校 児童数 3,898 人)

I 年間事業

(☆…今後の予定)

月 日 (曜日)	事業名	内 容 【出会者】
5月 7日 (金) KIRISIMA サンマリ ンスタジアム宮崎	宮崎県小学校体育連盟 第1回評議員会 14:00~16:00 ※ 新型コロナウイルス感染防止の ため中止	【会長 出会】 ○ 新役員の発表及びあいさつ ○ 令和2・3年度 報告・協議
5月13日 (木) 高鍋高校	第1回小・中・高体連合同理事会 ※ 新型コロナウイルス感染防止の ため中止	【理事長 出会】 ○ 令和2年度の取組
6月24日 (木) 高鍋西小学校	第1回東児湯小学校体育研究会 15:00~16:30	○ 役員・会員の自己紹介 ○ 県小体連理事会・専門部会報告 ○ 協議(事業計画 研究構想) 等
7月 2日 (金) KIRISIMA ヤマザクラ宮崎 県総合運動公園 合宿所	宮崎県小学校体育連盟 第1回理事会・専門部会 14:00~16:00	【理事長・研究部長・事業部長出会】 ○ 事務局からの報告 ○ 理事会・専門部会
8月20日 (金) KIRISIMA ヤマザクラ宮崎 県総合運動公園 合宿所	宮崎県小学校体育連盟 第2回理事会・専門部会・合同研修会 10:00~16:00	【理事長・研究部長・事業部長出会】 ○ スポーツ事業委託金配付 ○ 県学体研における小学校部会指導案検討
10月29日 (金)	第60回宮崎県学校体育研究発表大会	○ 都城地区主催 小学校部会 都城市立高崎小学校 都城市立明和小学校
11月5日 (金) 高鍋西小学校	第2回東児湯小学校体育研究会 ○ 事前研究会 マット運動(3年生) 授業者(高鍋西小 福田 哲也教諭)	○ 研究授業 ○ 事後研究会
11月26日 (金) 高鍋西小学校	第3回東児湯小学校体育研究会 ○ 研究授業 ネット型ゲーム(3年生) 授業者(高鍋西小 福田 哲也教諭)	○ 研究授業 ○ 事後研究会
☆2月4日 (金) KIRISIMA ヤマザクラ宮崎 県総合運動公園 合宿所	宮崎県小学校体育連盟 第2回評議員会 14:00~16:00	【会長・理事長 出会】 ○ 各地区スポーツ事業報告 ○ 各地区の小体連の研究の取り組み等
☆2月中旬 高鍋高校	第2回小・中・高体連合同理事会	【会長・理事長 出会】 ○ 令和元年度のまとめ
☆2月18日 (金) 高鍋西小学校	第5回東児湯小学校体育研究会 15:00~16:30	○ 協議(本年度研究のまとめと来年度 研究の方向付け、来年度の役員)

II 事業部のあゆみ

児湯郡内における児童の体力向上のために、通信水泳記録会（5、6年生児童対象）、通信陸上記録会（6年生児童対象）を実施した。

令和3年度 東児湯小学校通信水泳記録会実施計画

1 目的

- 各学校の水泳記録会の発表の場を通して、泳力向上の意欲を高めるとともに、他校の泳力の実態を知る。

2 対象

- 東児湯管内の小学校5・6年児童

3 募集記録

- 各学年 男女別 自由形（25m・50m） 平泳ぎ（25m・50m）
男女別 リレー（25m×4名）

4 実施方法

- 基本的に宮崎県小学校体育連盟標準記録認定要領をもとに実施する。

5 応募方法

- （1） 各校の記録をデータでまとめ、C4thの個人連絡機能にて集計する。
- （2） 事業部で記録を集約し、第2回体育主任会（11月2日）で結果を報告する。
- （3） 各種目、1位から3位まで表彰する。

令和3年度 東児湯小学校通信陸上記録会実施計画

1 目的

- 各学校の陸上（50m走・ソフトボール投げ）記録会の発表の場を通して、体力向上の意欲を高めるとともに、他校の運動能力の実態を知る。

2 対象

- 東児湯管内の小学校6年児童

3 募集記録

- 男女ともに50m走とソフトボール投げの記録を測定する。

4 実施方法

（1） 50m走

- 基本的に文部科学省が定めた「新体力テスト実施要項」をもとに実施する。

（2） ソフトボール投げ

- 基本的に文部科学省が定めた「新体力テスト実施要項」をもとに実施する。
- 投球フォームは自由であるが、できるだけ「下手投げ」をしない方がよい。また、ステップして投げた方がよい。

5 応募方法

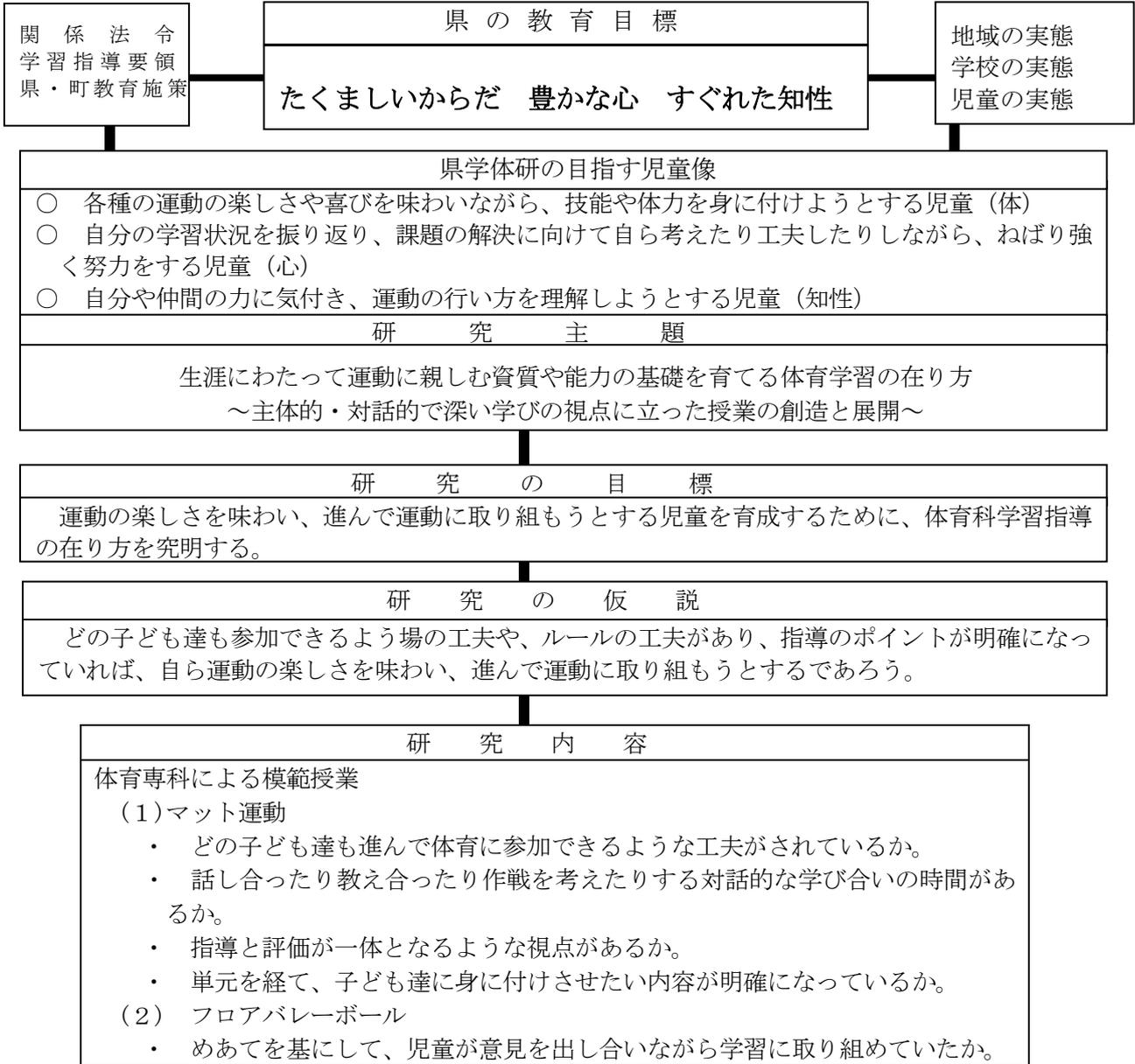
- （1） 各校の記録をデータでまとめ、C4thの個人連絡機能にて集計する。
- （2） 事業部で記録を集約し、第2回体育主任会（11月2日）で結果を報告する。
- （3） 各種目、1位から3位まで表彰する。

Ⅲ 研究部のあゆみ

1 研究主題

生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育学習の在り方
～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の創造と展開～

2 研究の全体構想



3 研究の実際

(1) マット運動

- ・ マット運動の基礎となる感覚づくり運動を準備運動に組み込んだ。くまあるき（腕支持感覚）、かえるの足うち、きりん逆立ち（背支持倒立）である。児童は感覚づくりが身についており、配慮が必要な児童も怖がることなく積極的に取り組んでいた。
- ・ 前転、後転のやり方を、児童と一緒に動作を言語化した。前転は「気を付け、ばんざい、おじぎ、コロん」、後転は「気を付け、パワー、しゃがむ、ころん」という合言葉を児童と一緒に考えた。単元を通してグループ内で合言葉を確かめ、かけ声を揃えていき、児童間で動作を評価し合うことができた。

- ・ 本時のめあてを「開脚後転のできばえを高めるには、どこを意識したらよいだろう」と設定し、できばえを高めるための方法を児童に考えさせた。グループで話し合いをさせると、「ひざをのばす」「勢いをつける」「フワッと浮いて回転する」などのポイントが出てきた。
- ・ 自分の課題にあった場所を選ぶため、「坂道マット」「セーフティマット」「段マット」「ロングマット」の4つの場の設定を行った。また、開脚後転のできばえを高めるために、「新聞紙のボール」をつくり、足で挟んで開脚後転の練習をした。遠くにボールを飛ばすように意識することで、だんだんとひざを伸ばして回転ができるようになってきた。

(2) フロアバレーボール

- ・ ネット型ゲームの特性を十分に理解させるために、ソフトバレーボールを簡略化してフロアバレーボールを行った。単元のゴールイメージを「ラリーの続く、フロアバレーボール大会を行おう」とし、「ねらい1」では、アタック、レシーブ、サーブ、セットなど基礎的な技能を高め、動きのポイントを確認しながら学習を進めた。「ねらい2」では、勝敗だけでなくチーム力が高まってきたことを感じられるように作戦を考えたり、お互いに称賛の声を掛け合えたりするような雰囲気づくりを行った。
- ・ 本時のめあてを「ボールを持っていないときは、どう動けばいいだろう」とし、第1触球者はボールの動きを予測してレシーブしやすい場所に動き、第2触球者がボールをセット、第3触球者がアタックをする3対3でプレーを行った。
- ・ 特に第1触球者と第2触球者に注目をし、守備の際にボールの動きを予測して動いている児童の動きをタブレットで撮影した。それをクラス全体で共有することで、動きのイメージを掴むことにも繋がり、児童間で評価し合ったり声をかけあったりするポイントとなった。



場の工夫の一つ、坂道マット



タブレットで共通理解している様子

4 研究の成果と課題

(1) 成果

- 本年度は体育主任が初めてだったり初任者だったりする研究員が多かったため、体育専科による模範授業は大変良い教材研究の場になった。
- 体育専科の模範授業を受けて、自校で伝達講習会や単元の実践を行った。その際、児童の課題に応じた場の工夫、マット運動の動作の言語化、ICTの活用の仕方など、より練度の高い授業実践を行うことができた。

(2) 課題

- 体育専科による模範授業で学ぶことが多かったが、その他の研究員による授業実践がなかった。実践を通して体育科指導の在り方の究明に迫ることも大事なので、来年度は研究員による授業研究会の実施・授業実践を取り入れていく必要がある。

5 参考資料

- 小学校学習指導要領解説 体育編